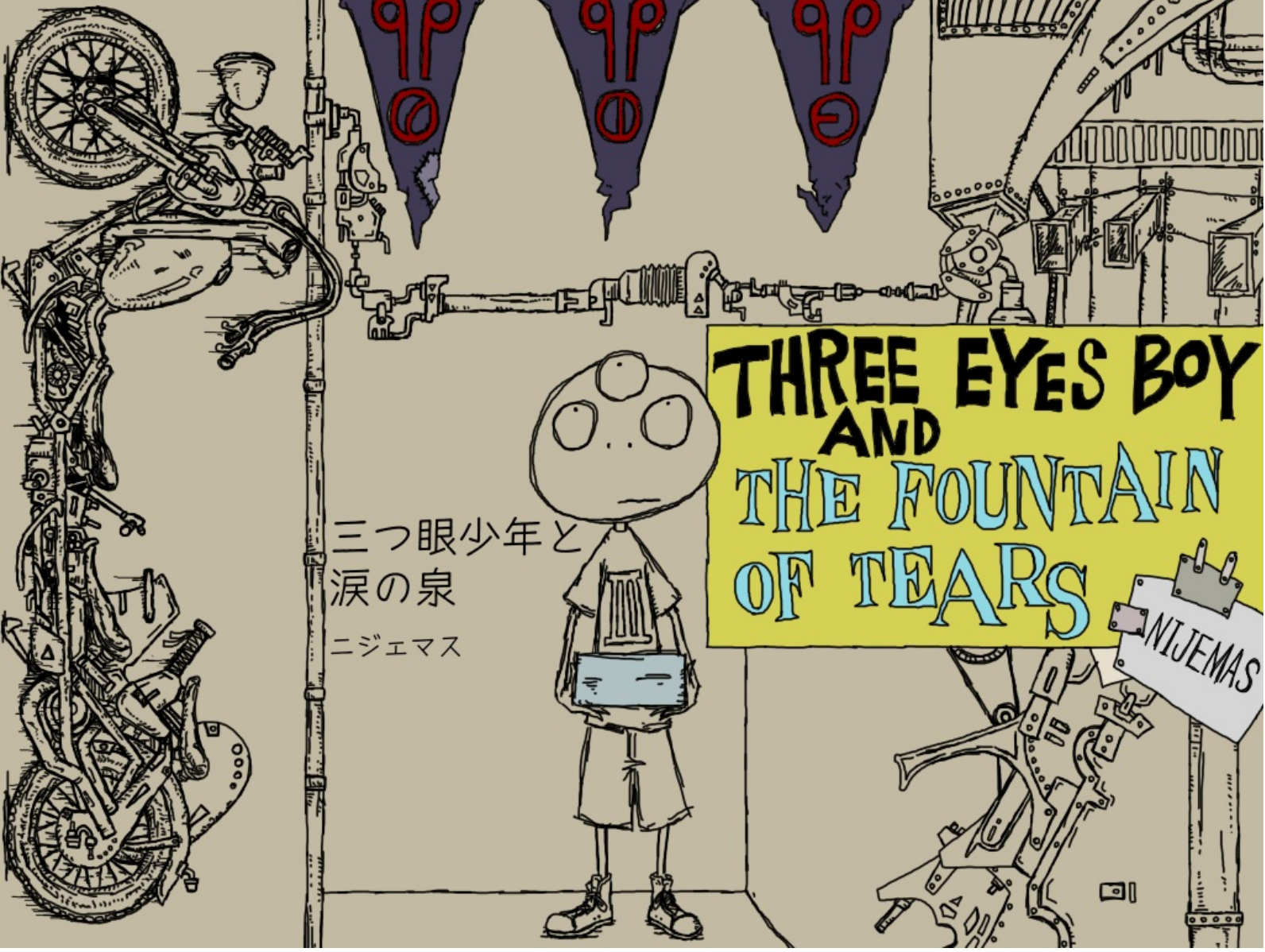
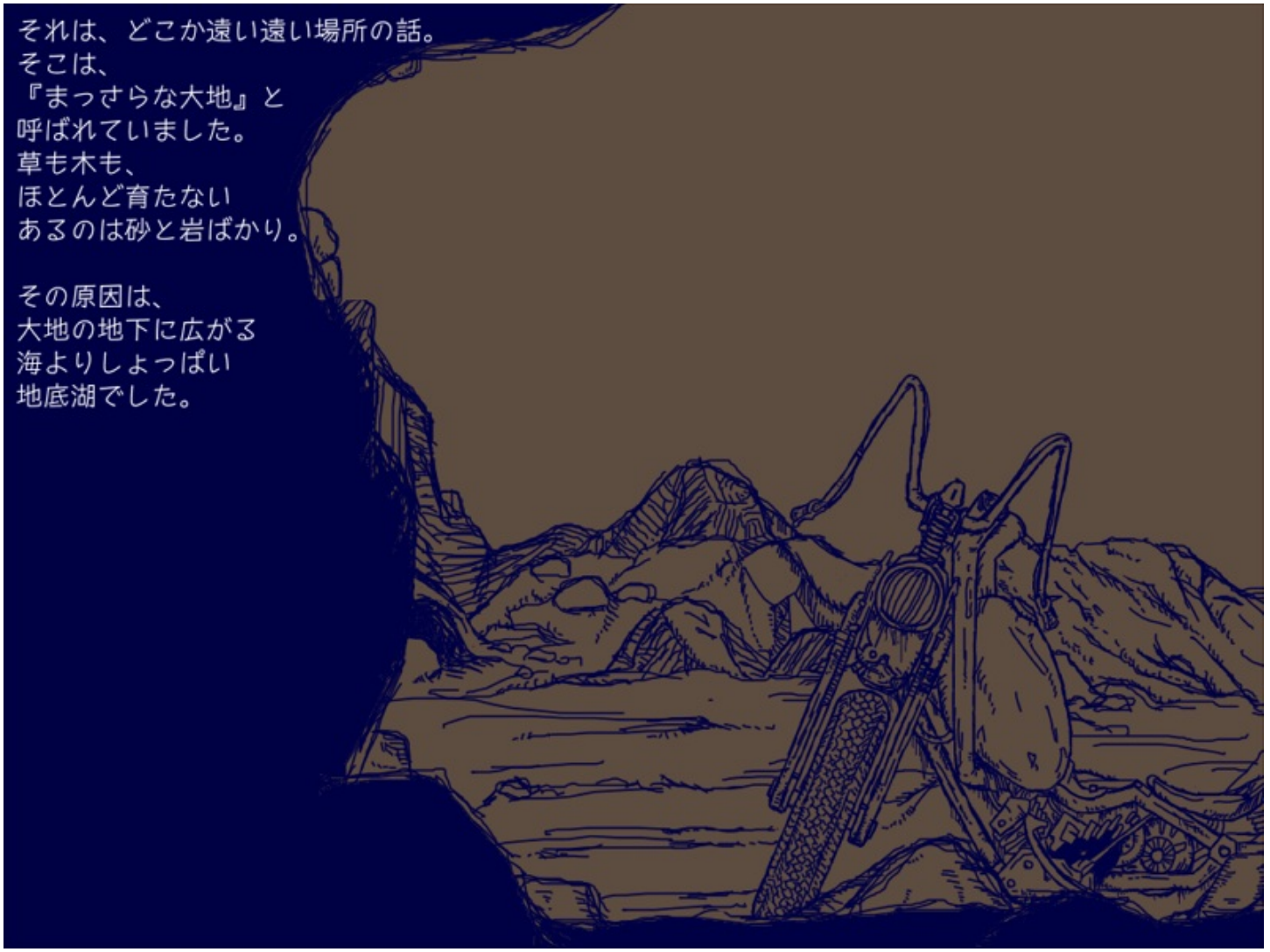
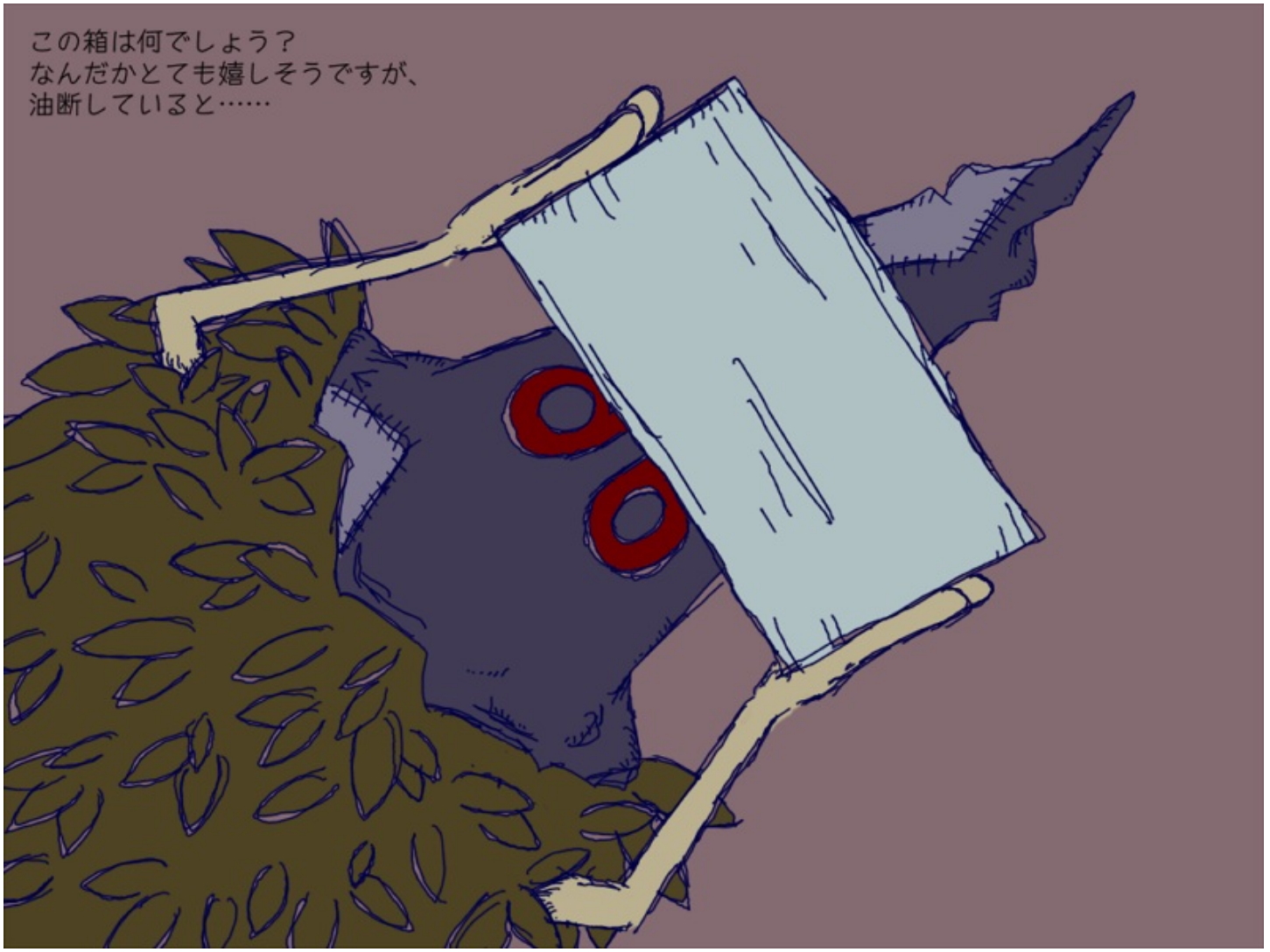

THREE EYES BOY
AND
THE FOUNTAIN
OF TEARS
三つ眼少年と
涙の泉
ニジェマス
NIJEMAS


それは、どこか遠い遠い場所の話。
そこは、
『まっさらな大地』と
呼ばれていました。
草も木も、
ほとんど育たない
あるのは砂と岩ばかり。
その原因は、
大地の地下に広がる
海よりしょっぱい
地底湖でした。

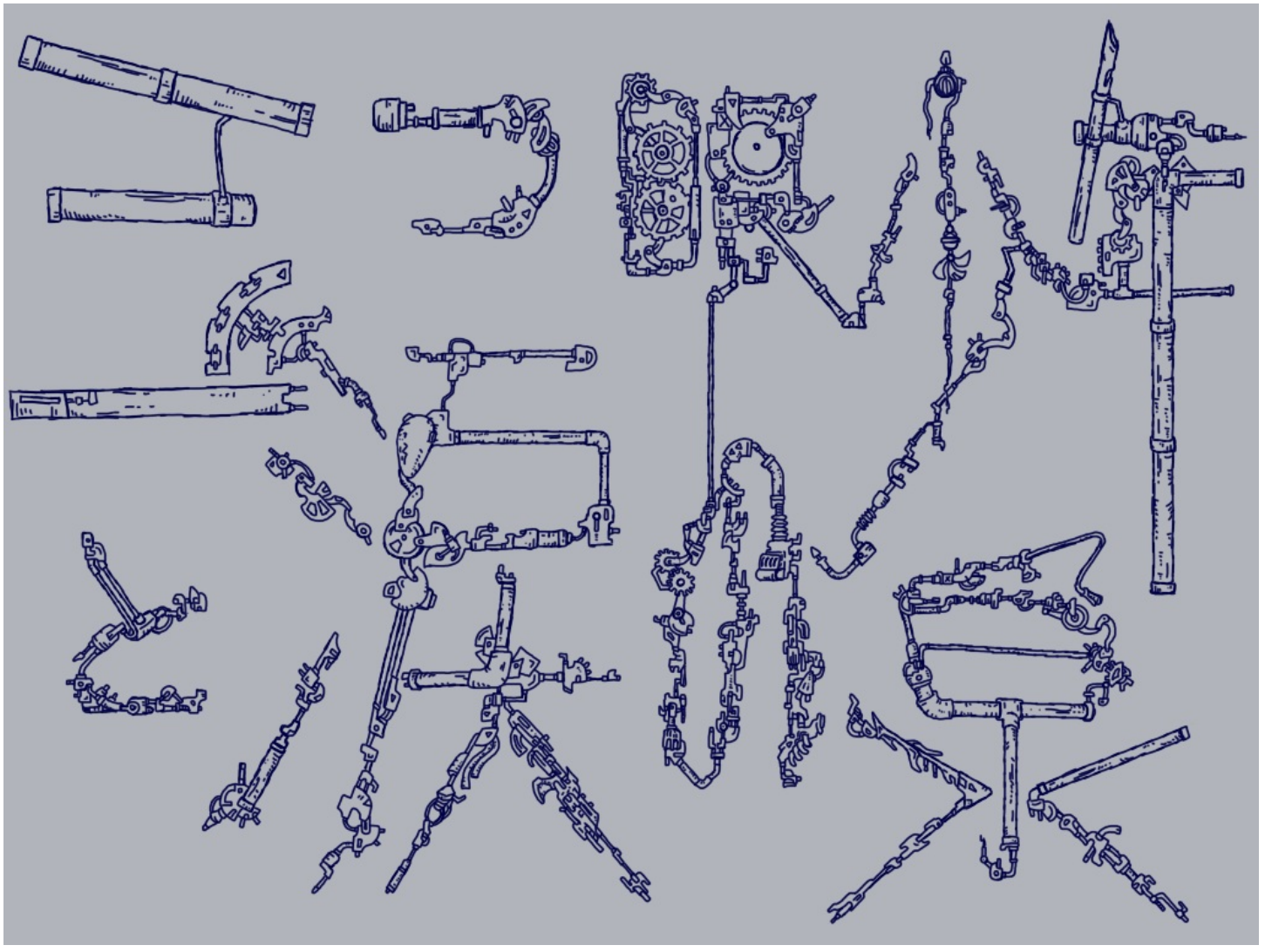
今から千年も昔のことです。
洞窟の奥の、そのまたずっと奥に突然 水が湧き出て、湖ができました。
そして、その水があまりにしょっぱいので、
その地底湖はこう呼ばれるようになりました。
『涙の泉』と。

『涙の泉』の上に広がる『まっさらな大地』
に、なにやら怪しい三人組。
何か手に持っています。


この箱は何でしょう？
なんだかとても嬉しそうですが、
油断していると……

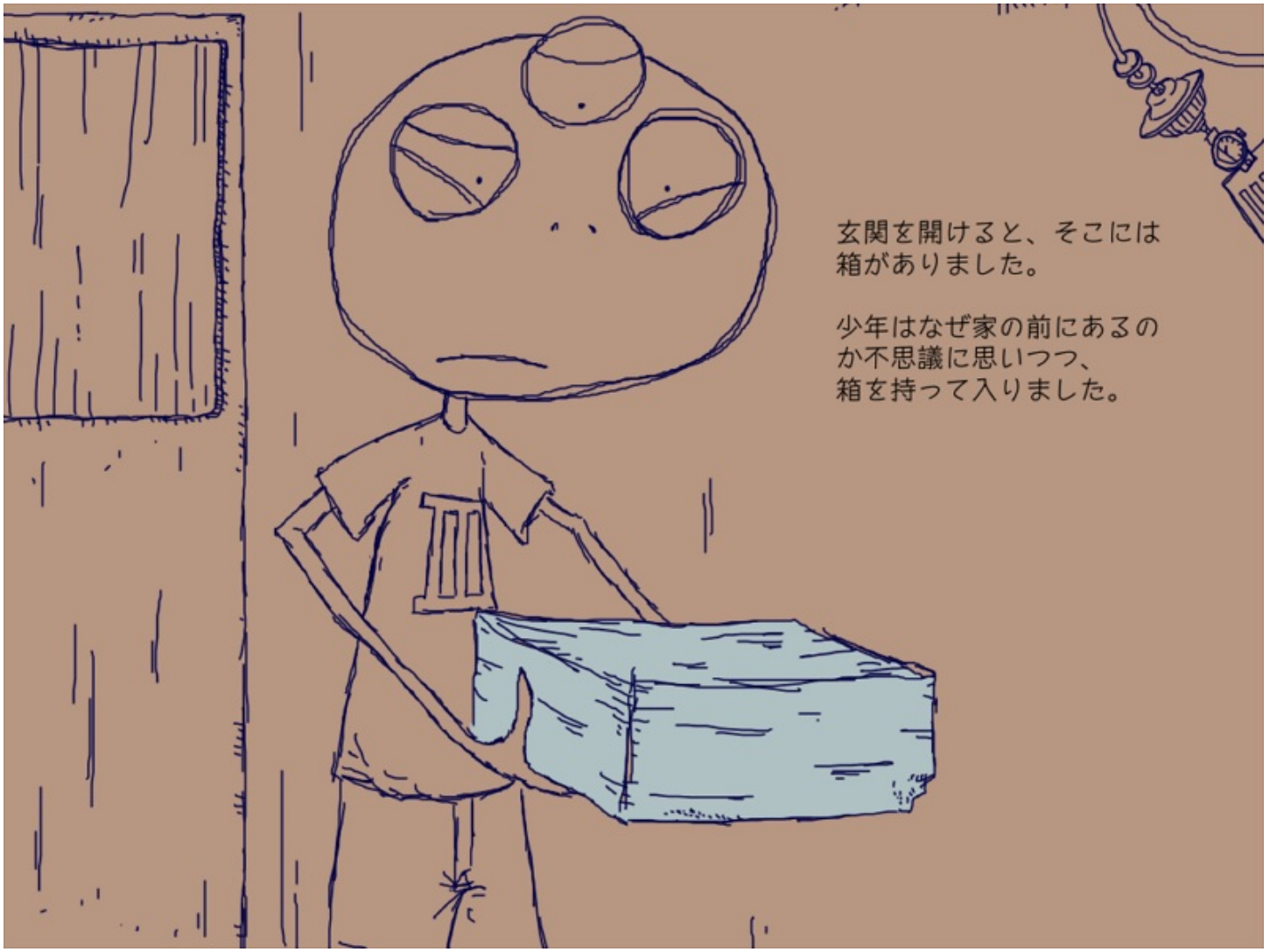
トリに盗られてしまいました。

三人組は大慌てでバイクに乗り、
トリを追いかけます。



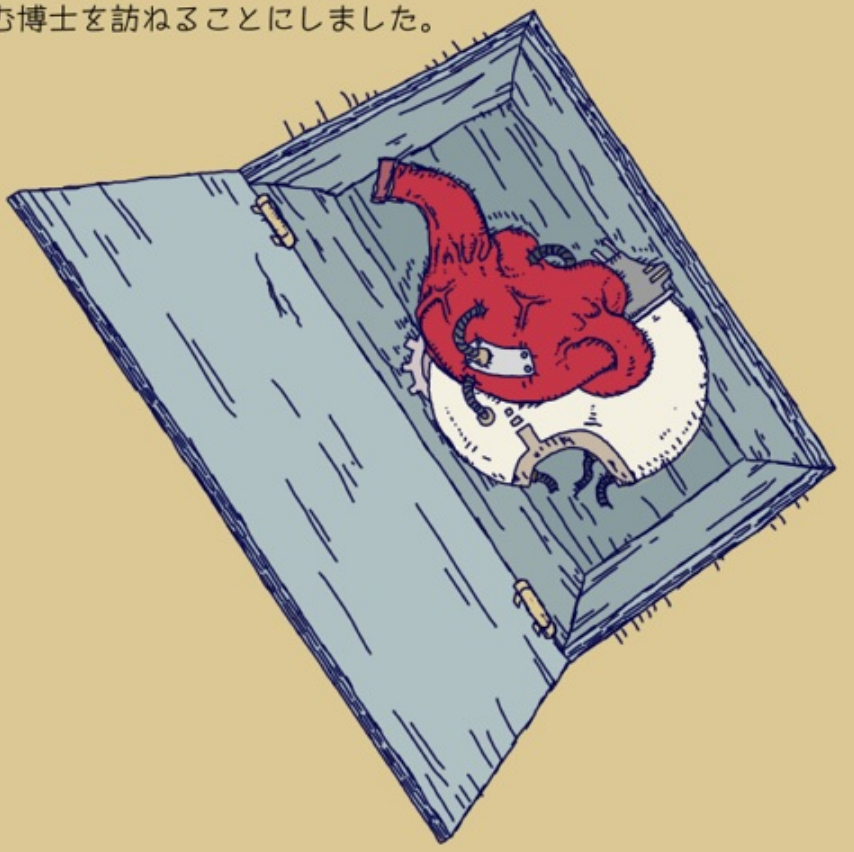
ところ変わって、小さな町。
『まっさらな大地』のすぐそばです。
ここには、眼を三つ持つ少年が住んでいます。

ゴトン！
突然、玄関の外から聞こえた音に
少年はビックリしました。

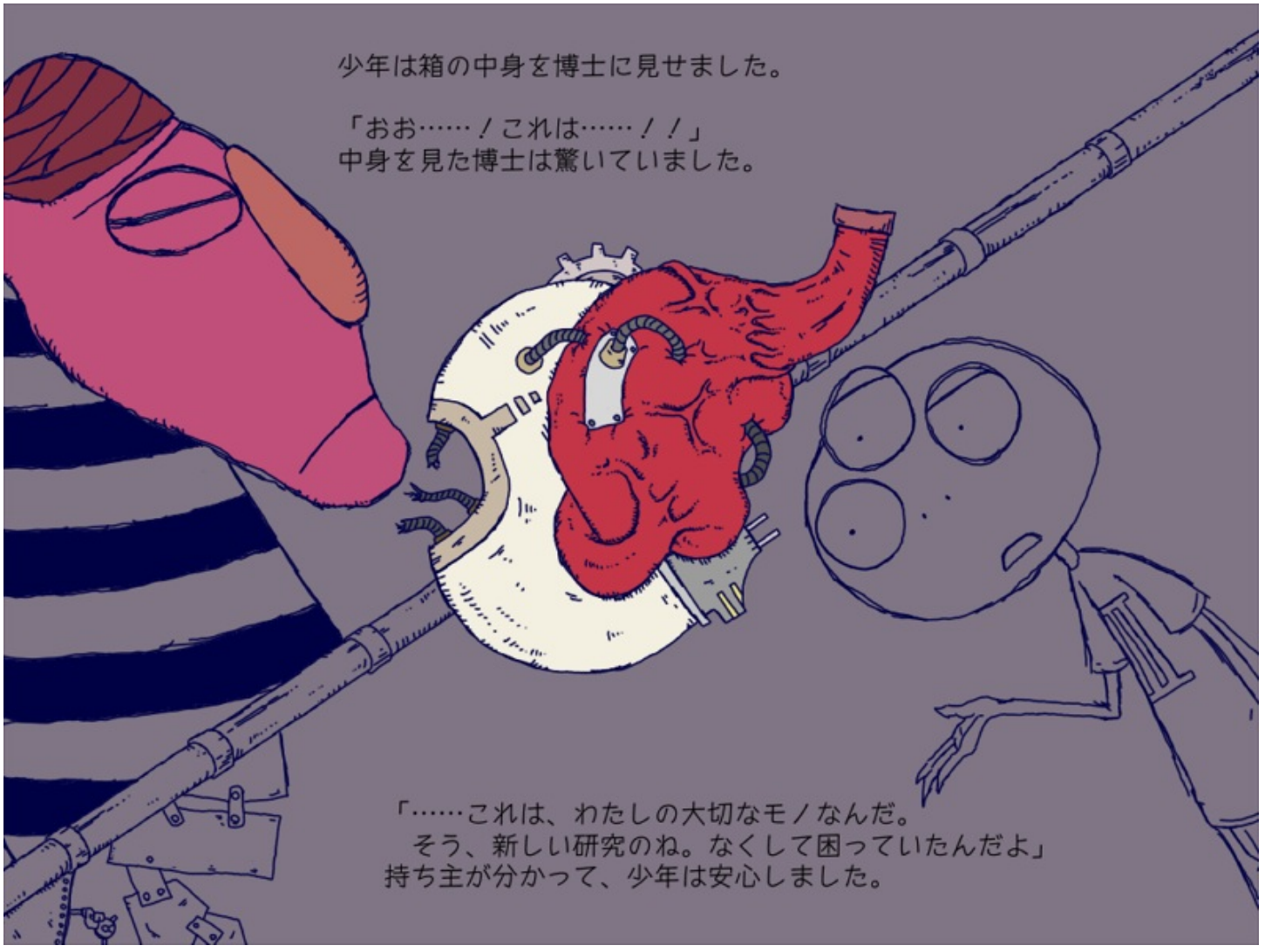

玄関を開けると、そこには
箱がありました。
少年はなぜ家の前にあるの
か不思議に思いつつ、
箱を持って入りました。

箱の中身は見たことのない不思議なモノでした。

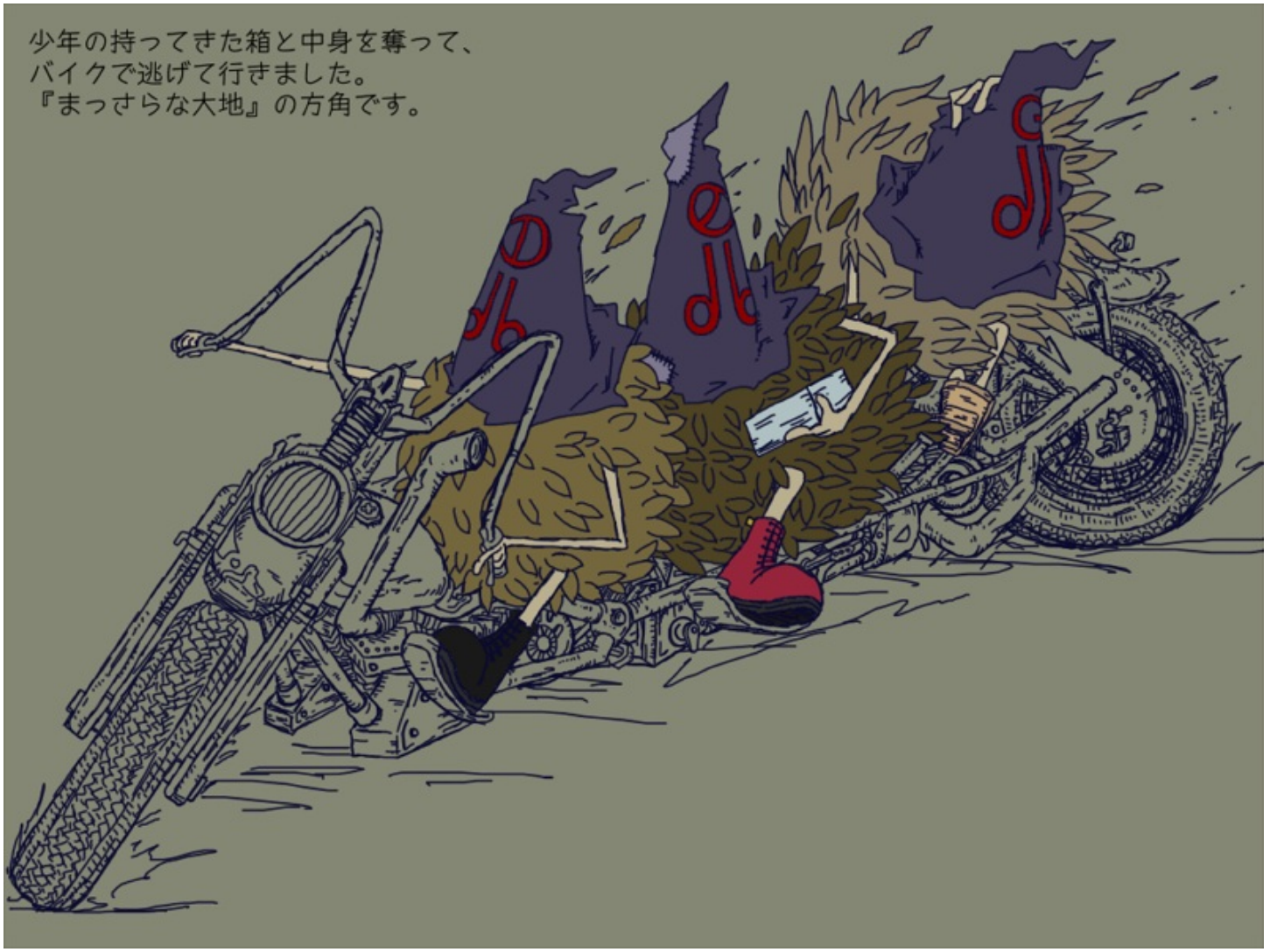
これが何なのかさっぱり分からない少年は、
町のはずれに住む博士を訪ねることにしました。

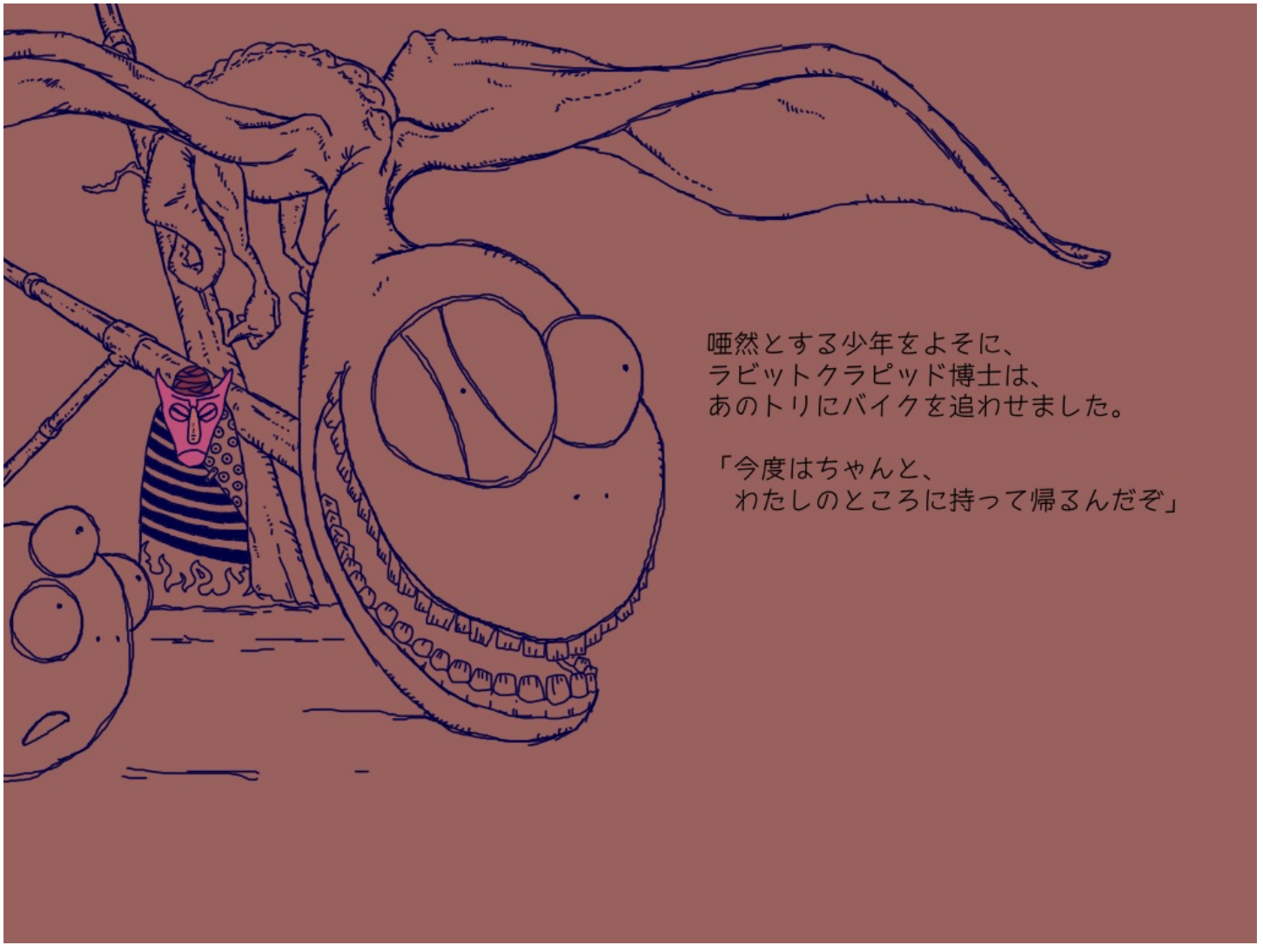


この人は、ラビットクラピッド博士。
機械や生き物や歴史、
なんでも知っている人です。


少年は箱の中身を博士に見せました。
「おお……！これは……！！」
中身を見た博士は驚いていました。
「……これは、わたしの大切なモノなんだ。
そう、新しい研究のね。なくして困っていたんだよ」
持ち主が分かって、少年は安心しました。

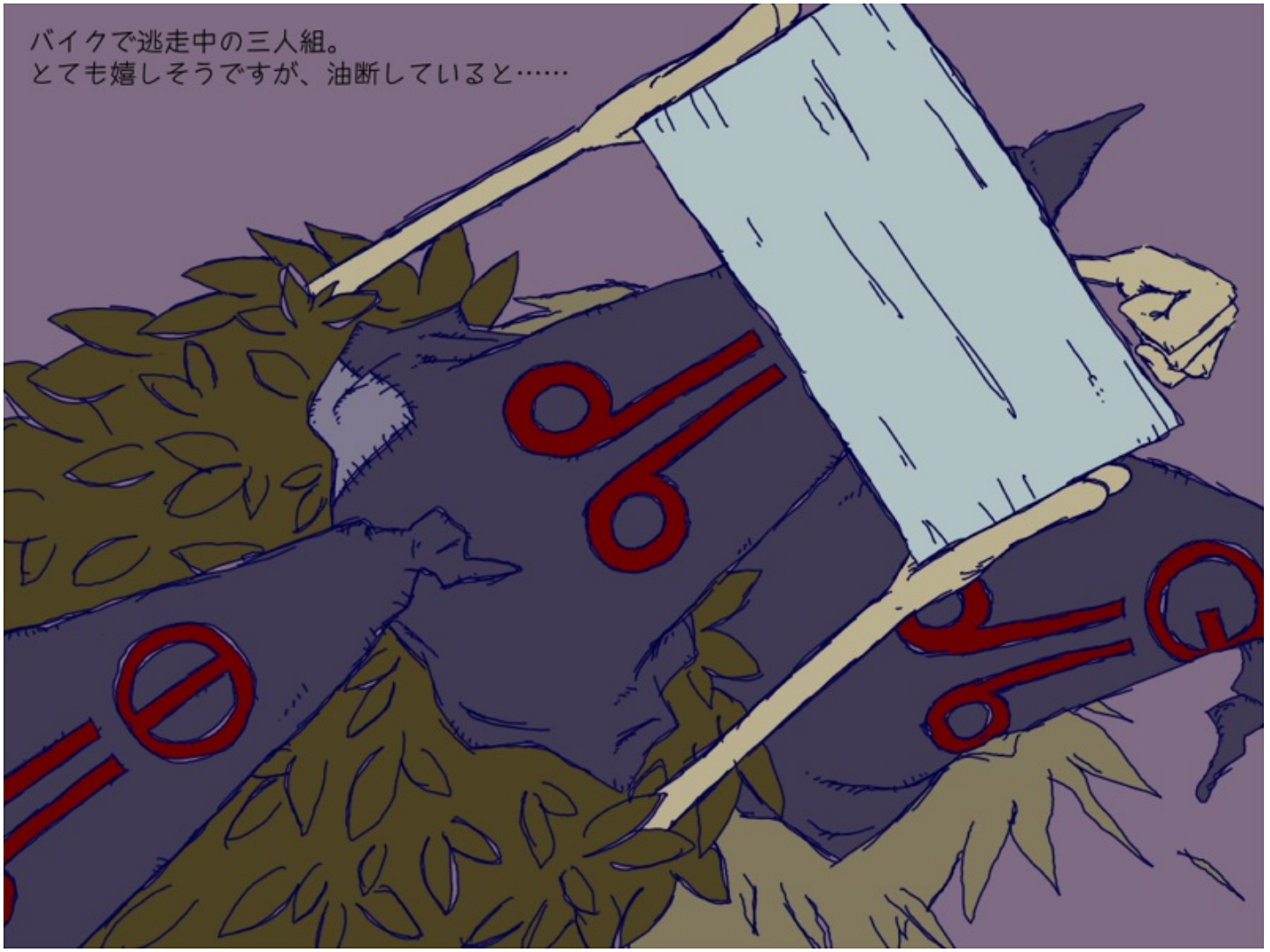
ガシャーン！！
突然　天井の窓ガラスを割って、奇妙なマスクを
かぶった二人が乱入してきました。


少年の持ってきた箱と中身を奪って、
バイクで逃げて行きました。
『まっさらな大地』の方角です。



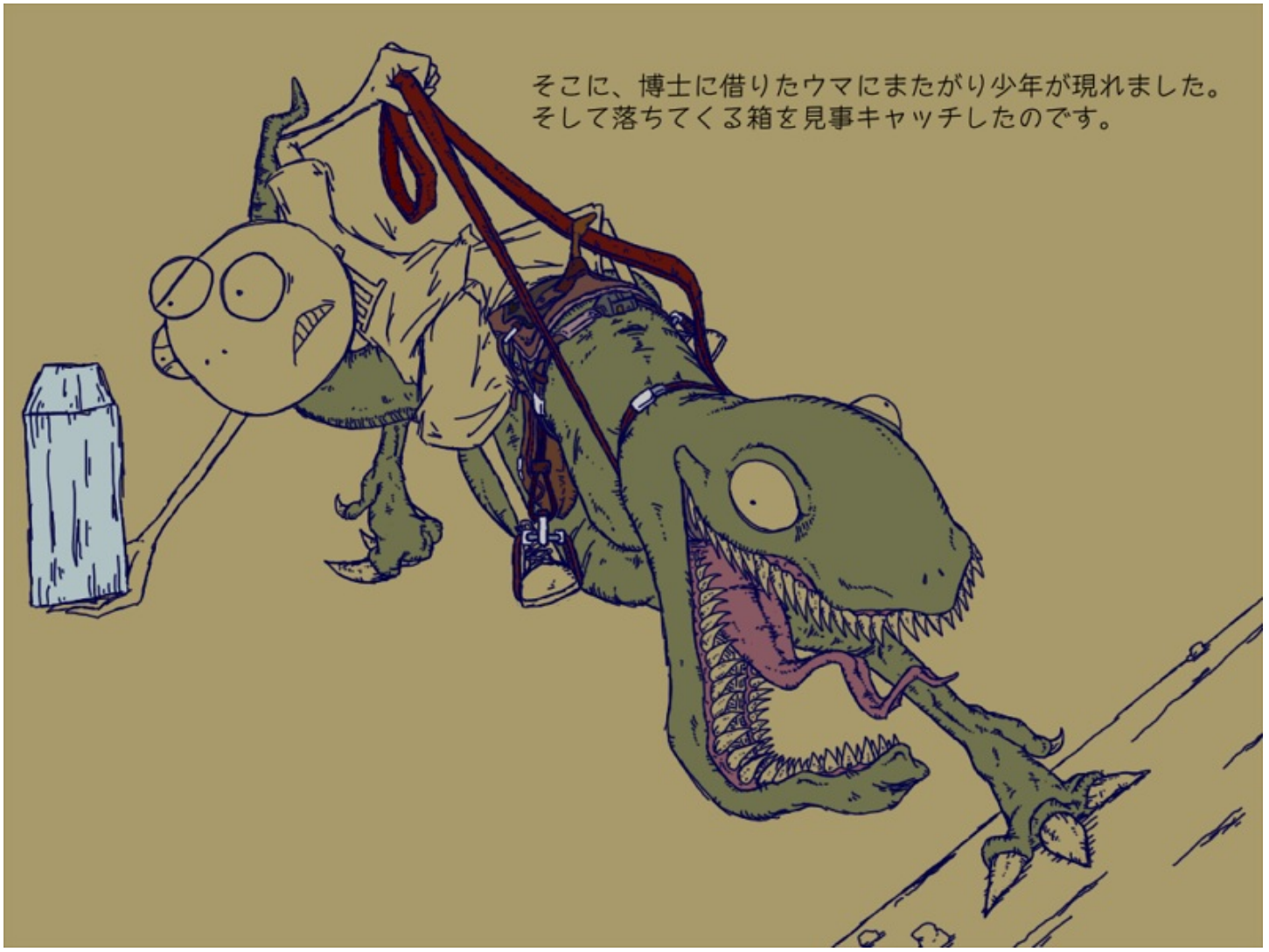
唖然とする少年をよそに、
ラビットクラピッド博士は、
あのトリにバイクを追わせました。

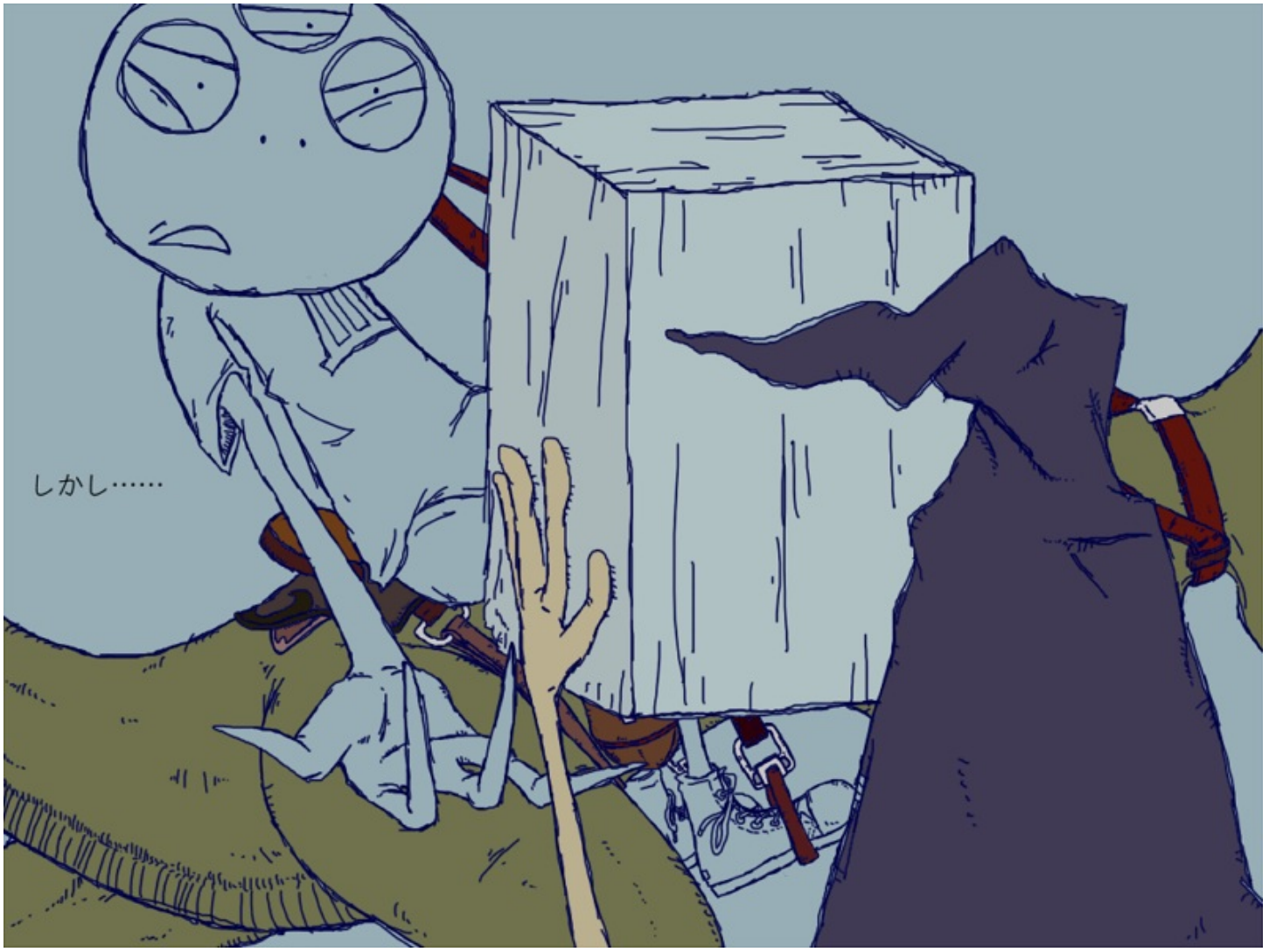
「今度はちゃんと、
　わたしのところに持って帰るんだぞ」

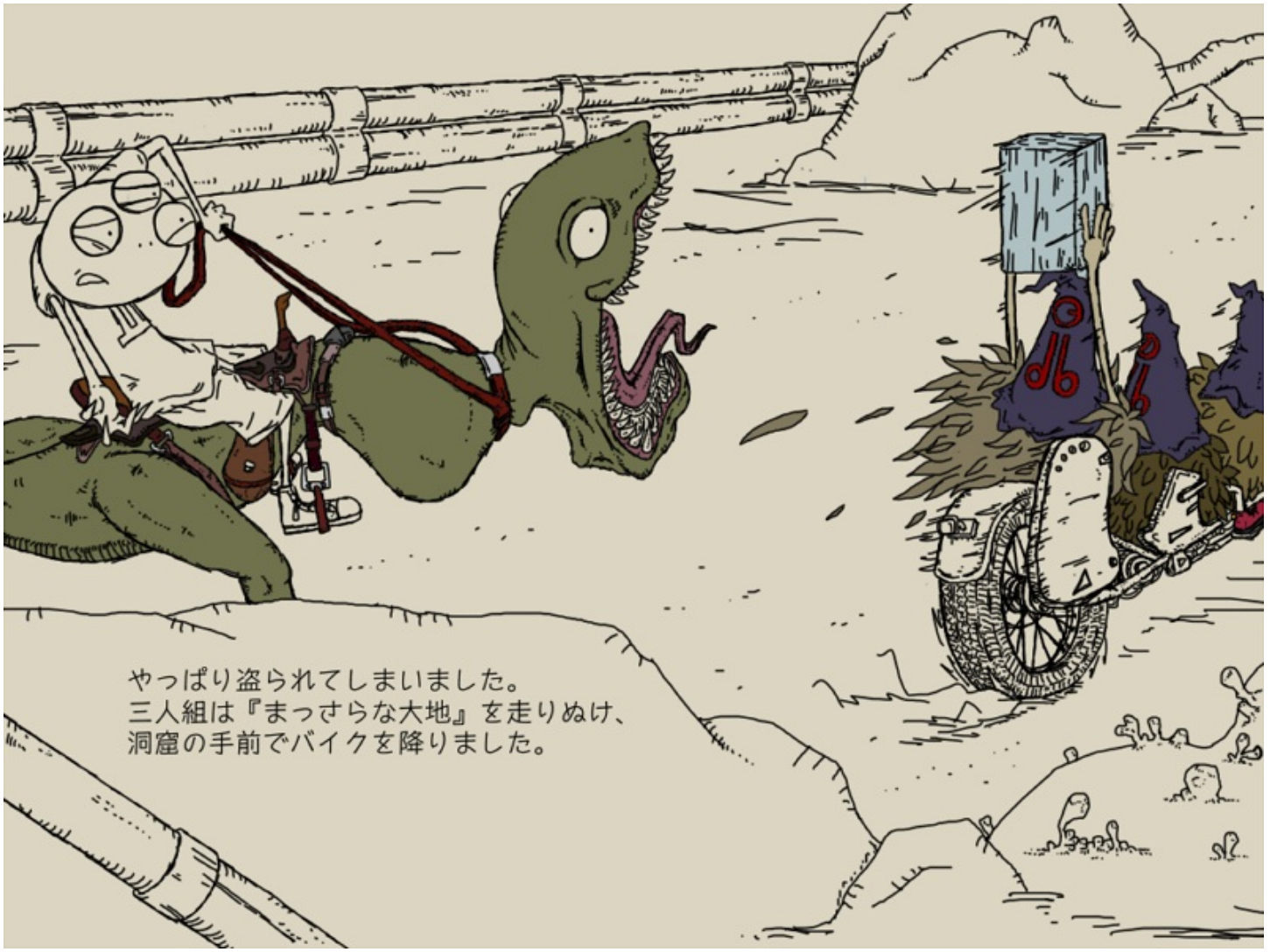

バイクで逃走中の三人組。
とても嬉しそうですが、油断していると……

トリに盗られてしまいました。
トリも してやったりな表情です。
でも……

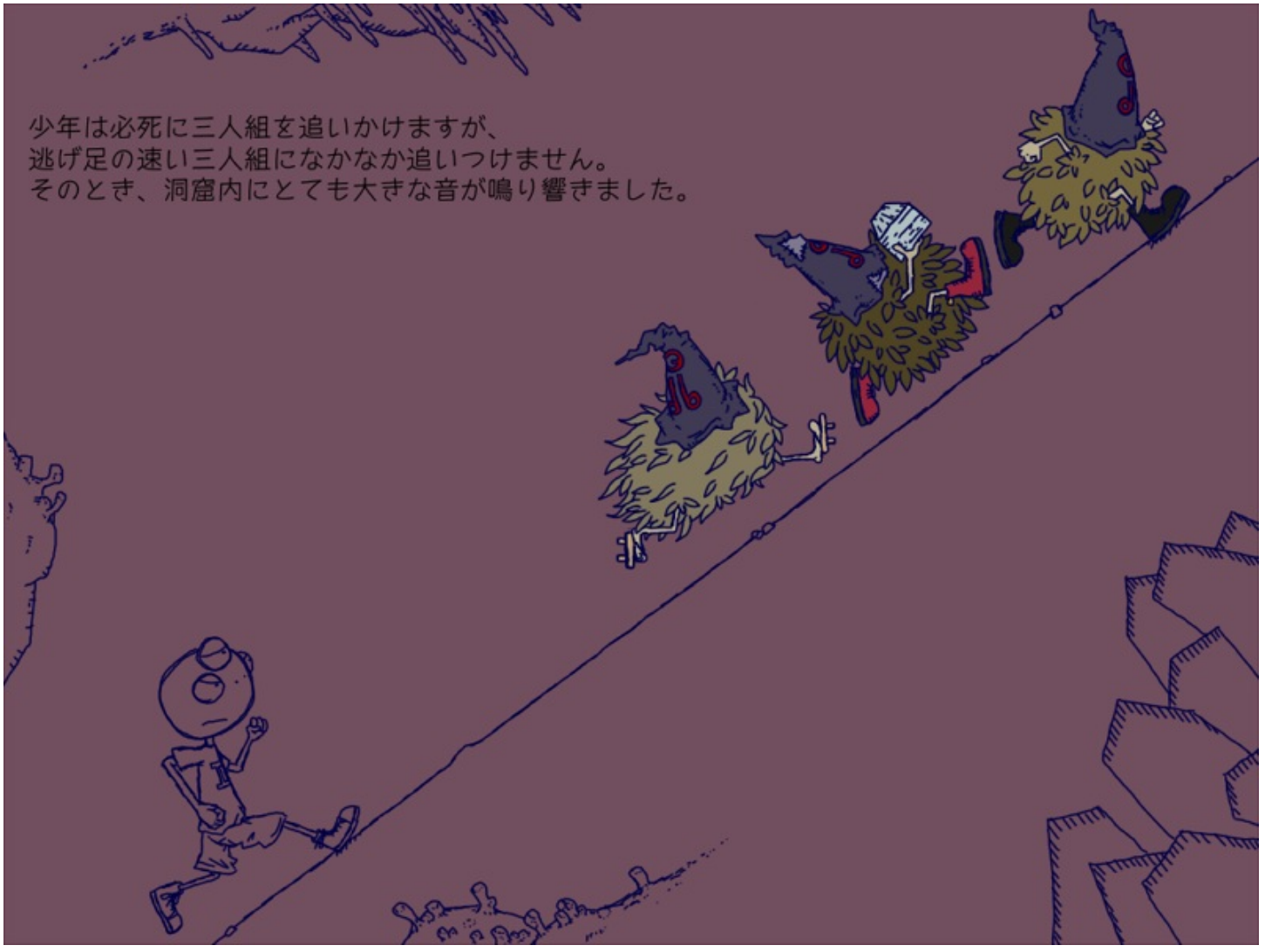
油断しているとこうなります。
箱は後ろに飛んで行ってしまいました。


そこに、博士に借りたウマにまたがり少年が現れました。
そして落ちてくる箱を見事キャッチしたのです。


しかし……

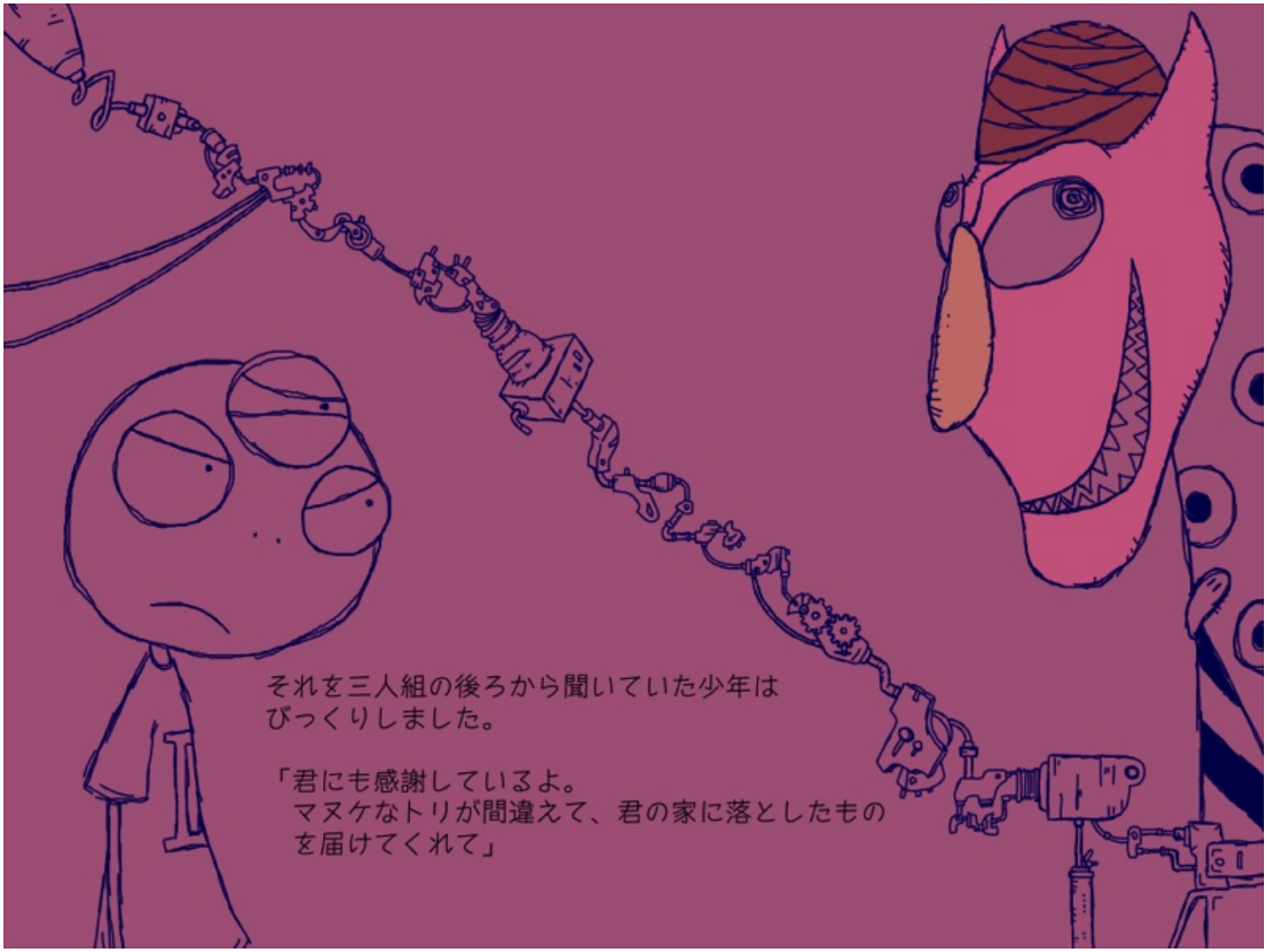

やっぱり盗られてしまいました。
三人組は『まっさらな大地』を走りぬけ、
洞窟の手前でバイクを降りました。

狭い洞窟の入り口を登っていきます。
少年もウマを降りて追いかけます。


少年は必死に三人組を追いかけますが、
逃げ足の速い三人組になかなか追いつけません。
そのとき、洞窟内にとても大きな音が鳴り響きました。

ドスンッ！
逃げる三人組の目の前に大きな鍾乳石が落ちてきて、
思わず箱を放り投げてしまいました。

放り投げた箱の先には、
どこから現れたのか
ラビットクラピッド博士
がいました。
周りには複雑な機械が
たくさんあります。
博士は左手に、いつかの
時代の“銃”と呼ばれる
武器を持っています。
鍾乳石は、銃を使って
博士が落としたのです。
「君たちには感謝している。
コレを見つけ出してくれて。
だが、奪い取るのにここまで
苦労するとは思わなかったよ」
そう言って博士は箱を手に取りました。


それを三人組の後ろから聞いていた少年は
びっくりしました。
「君にも感謝しているよ。
マヌケなトリが間違えて、君の家に落としたもの
を届けてくれて」

「お礼にこれが何か教えてあげよう。これは心臓、“巨人の心臓” だ」

そして、博士は横たわる巨大な何かに乗りました。

「巨人とは、この世界で
一番最初の文明が作り
出した兵器。そして、
この洞窟には、ほぼ完璧な
状態の巨人が眠っていた。
ただ一つ、心臓を除いてね」
そう言いながら博士は心臓を巨大な
何かに取り付け蓋をしました。

「そして彼らは巨人を壊す
ために心臓を探していた。
巨人を壊す方法は一つ。
心臓を逆さに取り付けるだけ。
それだけで、巨人はいとも簡単
に崩れ落ちるだろう。
……わたしは当然、そんなことはしない」
巨大な何かは静かに動き出しました。

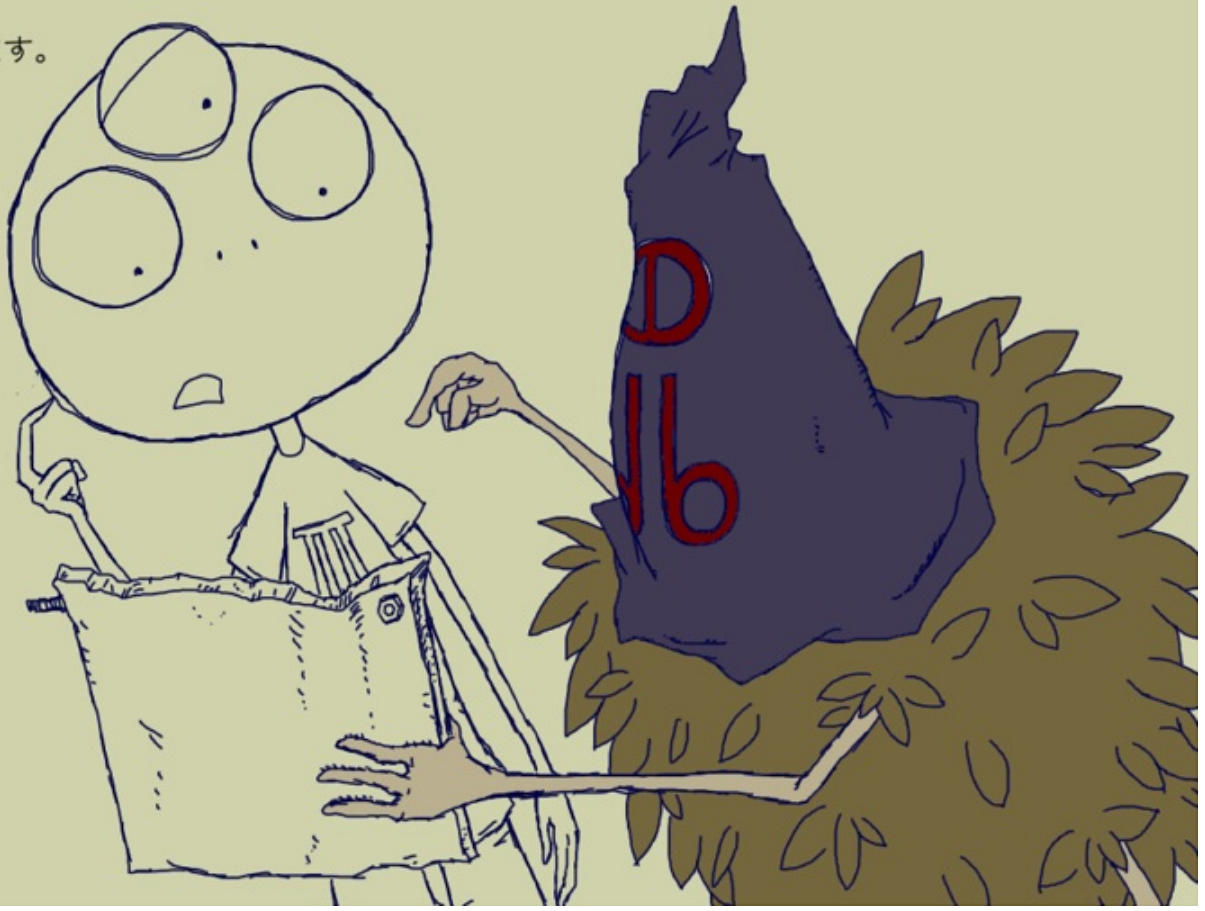
そして、巨人は立ち上がったのです。
「目覚めた巨人は、千年間止まることはない！
もはや誰も巨人を止めることはできない！」

そのときです。
巨人は
ラビットクラピッド
博士をつかんで持ち
上げました。
まるで遊んでいるよ
うです。

少年のもとに三人組が近寄ってきました。
そして、なにかボードに書き始めました。

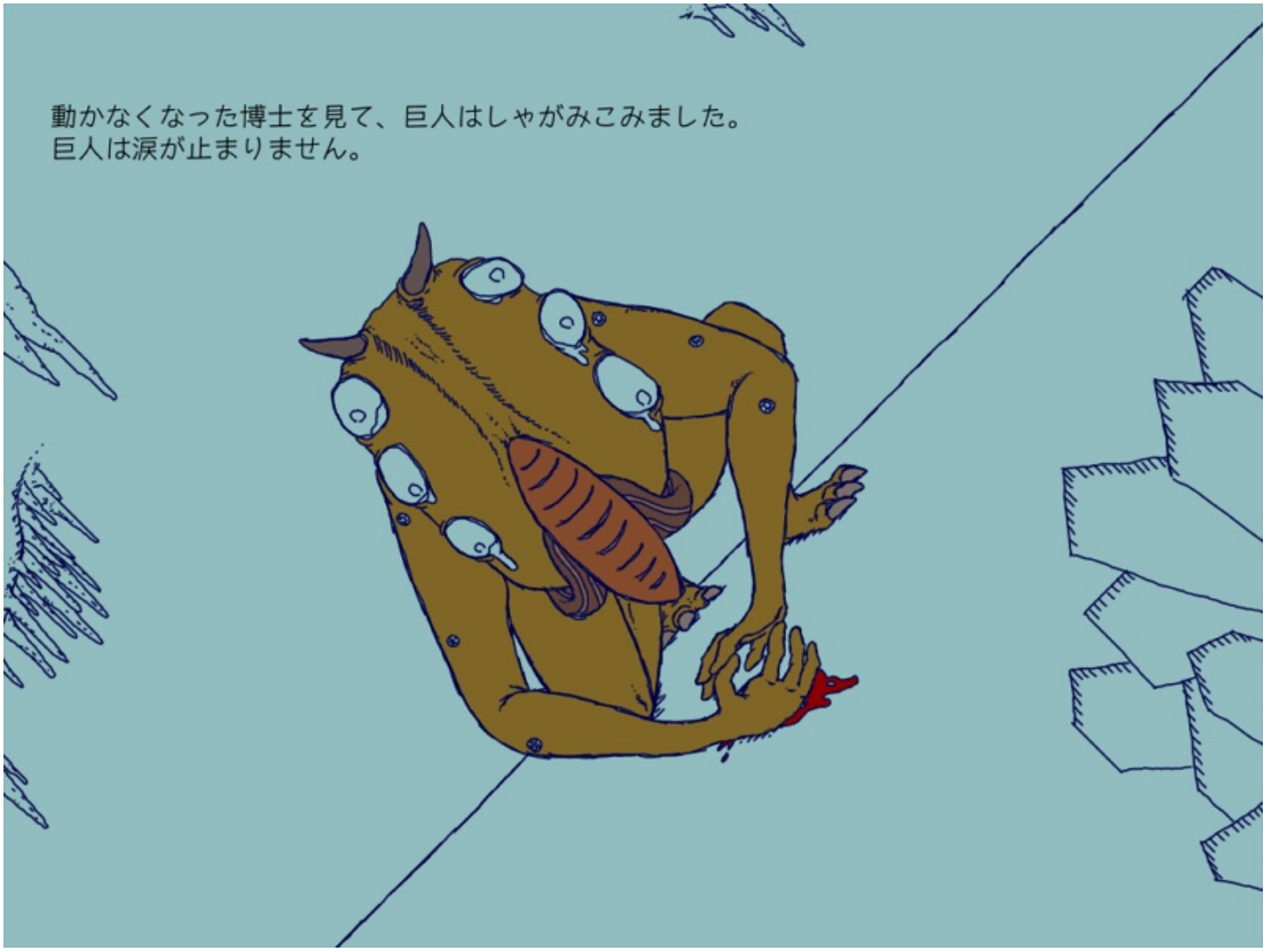
『目覚めたばかりの巨人は、赤ん坊。目覚めさせた者を親だと思い込む』

と書いてあります。

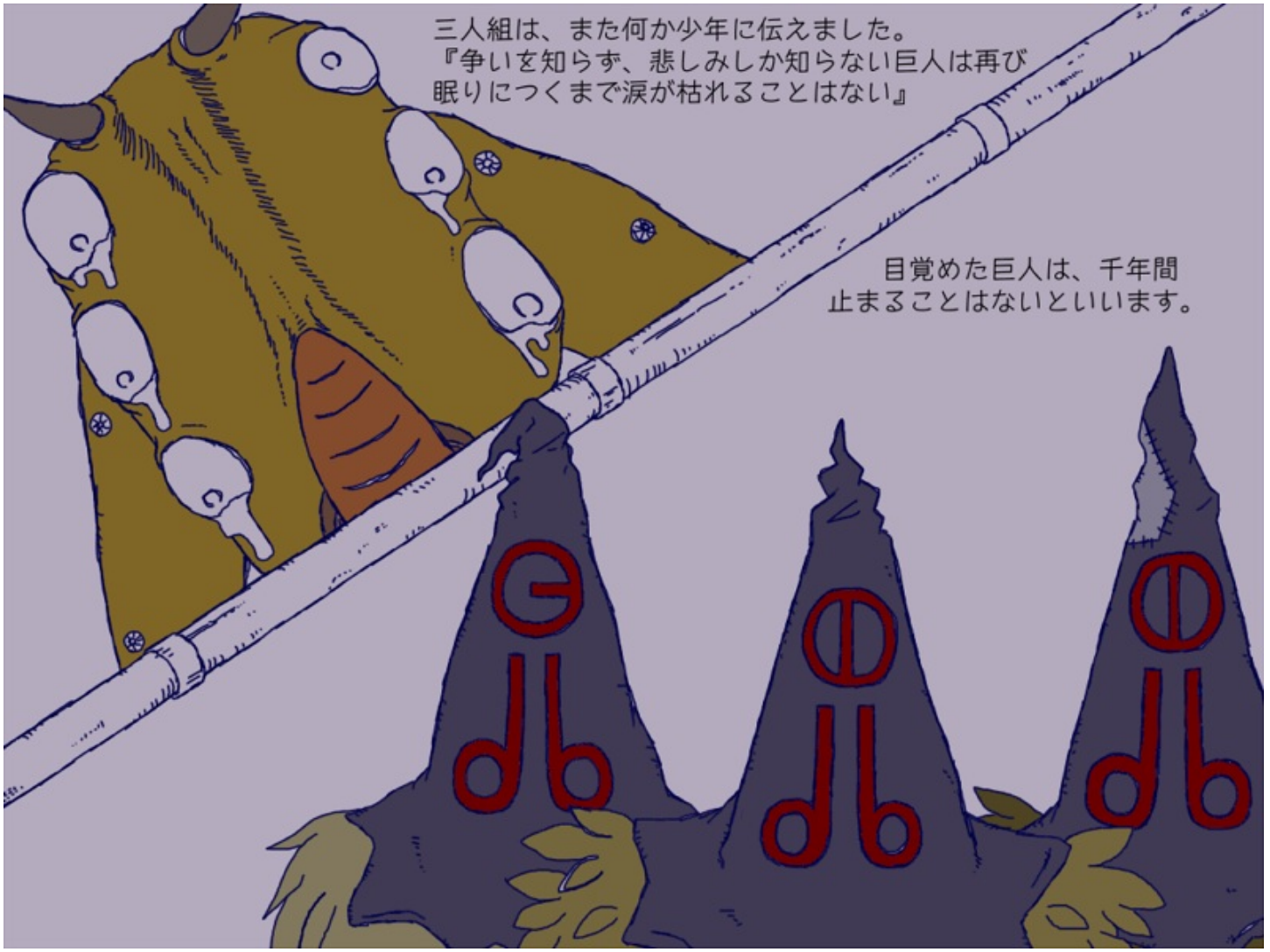


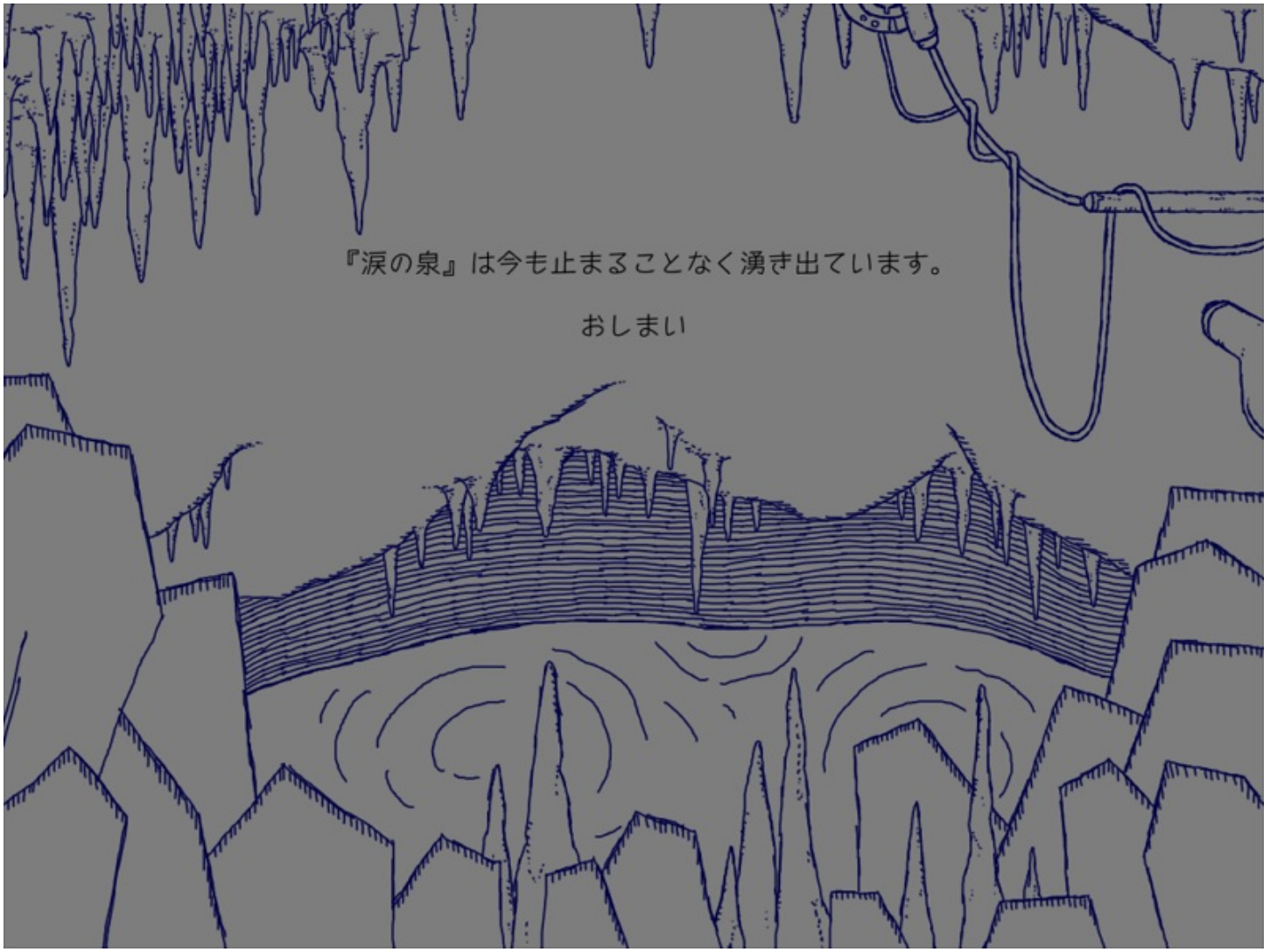
博士はそのことを知らなかったのです。
巨人は博士を無邪気に持ち上げて喜んでいます。
「離せ！ええい！離さんか！」
博士が怒鳴ると、巨人はびっくりしてそのまま手を離しました。

その手から解放されたラビットクラピッド博士は、
そのまま地面に落下して、叩きつけられて、動かなくなってしまいました。


動かなくなった博士を見て、巨人はしゃがみこみました。
巨人は涙が止まりません。

少年と三人組は洞窟を後にしました。


三人組は、また何か少年に伝えました。
『争いを知らず、悲しみしか知らない巨人は再び
眠りにつくまで涙が枯れることはない』
目覚めた巨人は、千年間
止まることはないといいます。


『涙の泉』は今も止まることなく湧き出ています。
おしまい

奥付

三つ眼少年と涙の泉

http://p.booklog.jp/book/36689

著者：ニジェマス
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/samejin/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/36689

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/36689

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.